

コロナ禍の家庭内事故防止対策と乳幼児挟み込み試験規格

コロナ禍の屋内での乳幼児の事故

▶ 2020年は2019年よりも屋内における子どもの事故が増加

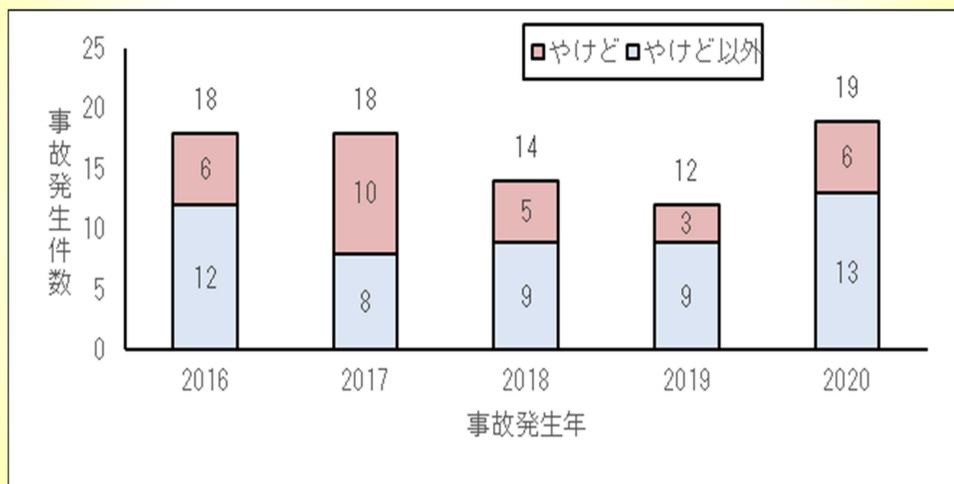


図1 年ごとの事故発生件数（屋内における子どもの事故）

乳幼児の事故には、次のような特徴があります。

- ▶ **「不慮の事故」が、乳幼児の死亡要因の上位**
(平成30年～令和2年厚労省人口動態調査より)
- ▶ **低年齢（0～6歳）では、住居（家庭内）での事故が多い。**
(消費者庁による平成22年～平成26年の「人口動態調査」個票データ分析より※2)
- ▶ **低年齢（0～3歳）の子どもに窒息死が多い。**
(消費者庁による平成22年～平成26年の「人口動態調査」個票データ分析より※2)
- ▶ **保護者からは見えない位置で／保護者が目を離したすきに／保護者が近くにいないときに起こることが多い。**
(NITEの事故情報より※3)

製品側からの乳幼児の事故対策

乳幼児の事故に関連の多いハザード（危険源）

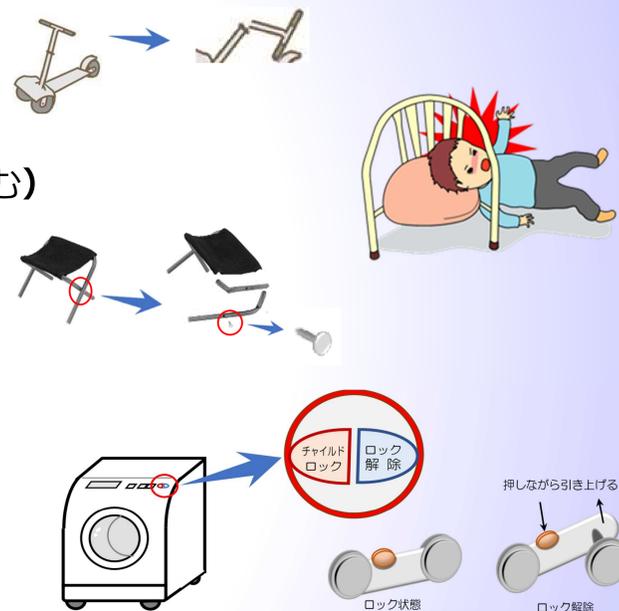
- ▶ **製品破損** : 事故件数898件、うち重大事故15件
- ▶ **隙間・開口部への身体挟込み** : 事故件数約260件、うち重大34（死亡1件を含む）
- ▶ **部品外れ** : 事故件数約165、うち重大事故19件

製品側の試験によりハザード（危険源）確認・排除

乳幼児の不慮の事故の内訳で多くみられるもの

- ▶ **不慮の窒息（のどつまり）**
- ▶ **転倒・転落**
- ▶ **不慮の溺死及び溺水**

適切なチャイルドレジスタンス機能やベビーベッドを設置する
(危険源に乳幼児をアクセスさせない)



乳幼児に配慮した製品の共通試験方法の紹介

▶ JIS S 0121「乳幼児に配慮した製品の共通試験方法 -隙間・開口部による身体挟込み」の紹介

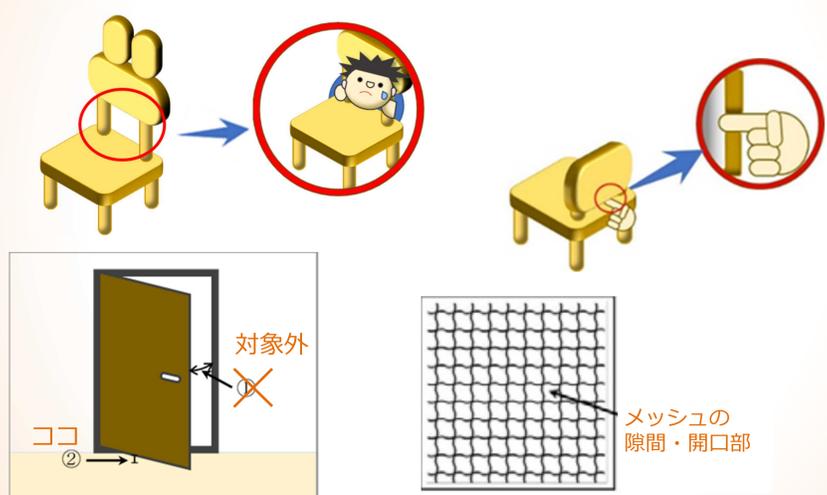


図2 隙間・開口部のイメージ例

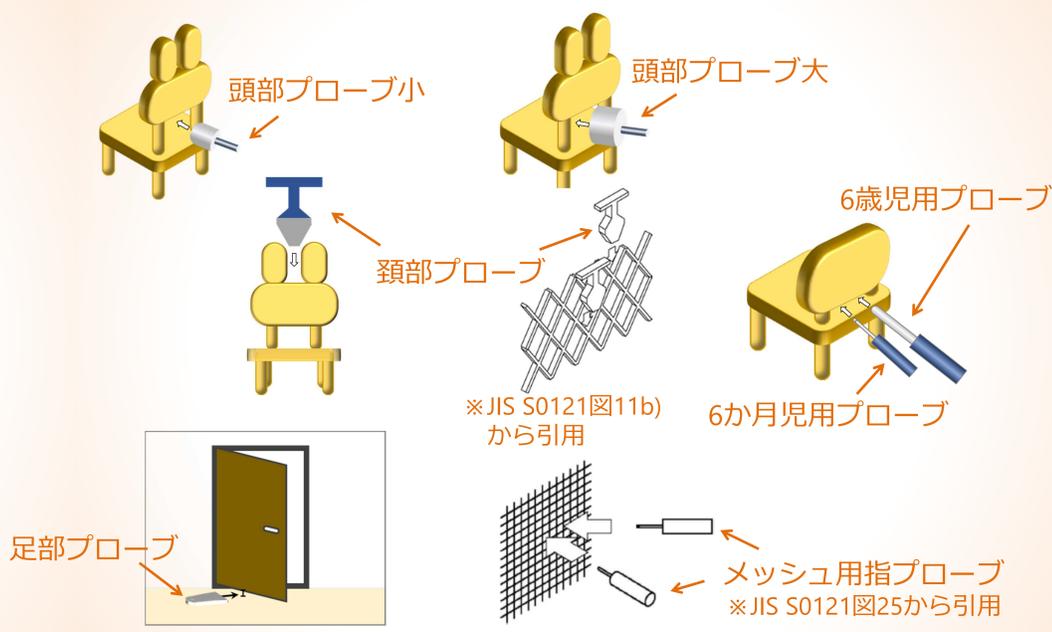


図3 試験プローブ挿入イメージ例
※これらの他、体幹プローブ及び脚部（下腿、大腿）プローブがある。